

RPS NETWORK

日本鉄道保存協会 会報

Railway Preservation Society of Japan

2015年4月号

「鉄道保存活動の原点」

小池 滋 (顧問/英文学者・東京都立大学名誉教授)

夏目漱石の長篇小説『三四郎』はいまでも広く読まれています。その中にイギリスの古い芝居のセリフとして“Pity's akin to love.”という句が出て来ます。登場人物の一人が「可哀想だ惚(ほ)れたって事よ」と和訳します。彼の先生からは「下劣」と評されましたが、公平な目で見て名訳ですね。

鉄道保存活動はもともと、この句から始まったと私は思います。気の毒だと思った個人が私財を投じて、世間からは笑いものにされながらもやって来ました。いまでは社会的に

認知されて、団体まで出ていますが、その初心は忘れてはいけません。

ただ、ここに難しい問題が生じます。純粋な愛が時として偏狭なエゴイズムになり、活動を妨げることもあります。正しいバランスを保つにはどうしたらよいのでしょうか。正直言って私にも正解は出ません。一つだけ言えるのは、漱石先生の訳に見られるユーモア精神を、この活動でも失うな、ということです。

2014年度総会を開催 11月1日(土)~2(日)

事務局 米山淳一

1日目 総会・交流会

全国から100名を超える会員やオブザーバー、関係者が集い、2014年度日本鉄道保存協会総会を、片上鉄道保存会のご尽力で美咲町(岡山県)で開催いたしました。

見学会は、旧片上鉄道吉ヶ原駅と今回新たに160m線路を延長した黄福柵原駅間でおこなわれました。

片上鉄道保存会の活動は活発で、本格的に気動車等の歴史的車両を動態保存され、各方面から高い評価を得ています。我が国の先進的な動態保存事例として海外でもその知名度は高まっています。

総会では、平成25年度事業・収支報告、平成26年度事業計画、収支予算他が審議されました。また、北海道江別市の「山田コレクション」の保存状況についても報告書をもとに説明がありました。

開催地報告は片上鉄道保存会のほかJR西日本岡山支社が津山機関車庫の保存公開の二つの事例があり、各地から

の報告は、丸瀬布森林鉄道、小坂鉄道保存会、JR東海リニア鉄道館、四国鉄道文化館の担当者が壇上に上がりました。

さらに、特別発表として日暮成一さんのお知り合いの「ベルギー tram 保存会」の市民活動のメンバーがダイナミックな動態保存例を披露されました。

夜は、楽しい交流会で親睦を深めました。

2日目 片上鉄道とJR西日本津山機関車庫を見学

黄福柵原駅開業と160m延伸の式典や線路締結式がありました。

たくさんの方々が全国から訪れ、吉ヶ原駅、黄福柵原駅は大賑わいでした。森岡さんご夫妻、会員の皆様お疲れ様でした。感謝。

午後は、JR西日本津山機関車庫を見学。気動車がずらりと並んだ扇形庫は壮観。JR岡山支社の信江さんお疲れ様でした。感謝。



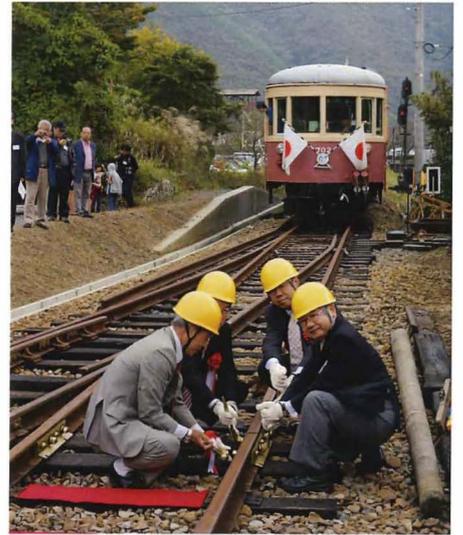
美咲町柵原総合文化センターでの総会で開会挨拶をする代表幹事団体、公益財団法人交通協会の菅 建彦会長。'14.11.1 P:名取紀之



総会翌日の見学会では黄福柵原駅の開業式典に参加。片上鉄道保存会の皆さんの熱意と実行力に一同大感激。'14.11.2 P:米山淳一



延伸なった線路で日本鉄道保存協会参加者一同の記念撮影。懸念された天候も薄日が出るほどに好転した。
'14.11.2 P:米山淳一



黄福柵原駅への160mの線路延伸は、来賓を交えて線路締結式が行われた。右手前は日本鉄道保存協会を代表して締結作業をされる交通協力会の管会長。
'14.11.2 P:名取紀之

2014年度見学会 ダイジェスト



キハ702の乗り心地を堪能する参加者の皆さん。喜寿を迎えた気動車を実体験できるのも片上ならではの。
'14.11.2 P:名取紀之



小旗を振る多くの人々に見守られながらキハ702+キハ303の一番列車が黄福柵原駅に到着。

'14.11.2 P:名取紀之



ベルギー旧国営トラム保存協会(ASVi)からはエリック・ピナメさん(左から二人目)ら4名が来日。左端は鉄道博物館の荒木文宏館長代理。
'14.11.1 P:名取紀之

扇形庫の見学は地元のボランティアの方の案内もあって実に楽しいものとなった。
'14.11.2 P:米山淳一



JR西日本岡山支社が「みまさか鉄道遺産」としてその利活用に取り組んでいる旧津山扇形機関車庫前で記念撮影。こののち皆さん全国各地へと帰って行かれた。
'14.11.2 P:米山淳一



1930(昭和5)年に設置されたという60ft(約18.24m)下路プレートガーダー式の転車台。1931(大正6)年に標準設計された「G2-1」形で、手前の二輪式転車台電動牽引機は1954(昭和29)年福島製作所製の二代目。
'14.11.2 P:米山淳一

ご参加ありがとうございました。

片上鉄道保存会 業務担当幹事 森岡誠治

昨年11月2日の黄福柵原駅開通式への遠路からのご参加ありがとうございました。保存会一同、この日を皆様と迎えられることをなによりの喜びに感じて活動を継続しています。美咲町の職員も皆さん元気です。金色の継目板が繋いだものは明日への希望でした。螻蛄の斧であろうと「継続は力なり」。また、多くの賛同者あってこそ夢が叶うこともある。その2つの具現化の瞬間を日本鉄道保存協会の皆様のお立会いで成功出来たことに感謝しています。

開通から4ヶ月が経過し、前年比50%増しの来園者増、県単位での地域経済効果試算結果は3311万円/年、新駅舎償



団体専用の3連が黄福柵原駅へ入線。今後は4両対応への活動を進めてゆく予定。
P：森岡誠治



トロリが入線して照明柱が完成。 P：森岡誠治



開通した51号分岐器。 P：森岡誠治

還期間は2.5年見込というのが現状実績です。黄福柵原駅供用開始により気動車を全て連結した3両編成で片道最大運搬量1620人/日(9便)に対応できるようになりました。現在は、黄福柵原駅完成(2面1線、4両対応化工事)への活動を再開、周辺観光との地域連動を開始いたしましたことを民間動態保存の一事例としてご報告いたします。

※ 誌面の都合上割愛して掲載しております。全文はRPSJホームページに掲載しております。

英国ヘリテイジレールウェー会長デイビッド・モーガン氏来日

文と写真：米山淳一

デイビッド・モーガン氏が3月24日(火)に来日しました。24日は、当協会代表幹事団体である(公財)交通協力会会長 菅 建彦と事務局長米山淳一と宿泊先の品川でお会いしました。来日の目的は、本年10月に日本で開催予定のワットトレイン(世界鉄道遺産会議)のスケジュールや会議内容に関して詳細を詰めるためでした。

27日(金)は、宿泊予定の浦和市のホテルや会議や視



真岡駅に停車中のC12 66。



浜田庄司参考館の旧浜田邸。



圧縮空気で動く9600と記念撮影。右から交通協力会菅会長、真岡線運行協議会中山事務局長、デイビッド・モーガンさん、事務局米山、真岡線運行協議会竹林部長。
'15.3.28

察のお世話をお願いする日本旅行法人営業部の担当者とも綿密な打ち合わせを行いました。翌日の28日(土)には、会議に参加の皆さまの視察先のひとつ、真岡鐵道に参りました。東北新幹線、水戸線を乗り継いで下館駅から真岡線のC12 66号牽引の列車で真岡駅に向かいました。真岡駅では、当協会会員の真岡線運行協議会の中山事務局長や竹林部長のお出迎えを受けました。お二人のご案内で真岡駅構内のキハ20、スハフ44形客車、貨車などの保存車両を見学しました。中でも、モーガン氏は圧縮空気で動く蒸気機関車(9600形)に大いに興味を示されました。英国や欧州では見られない珍しい事例だそうです。

その後、焼き物の里、益子町へ移動。益子焼の人間国宝「故浜田庄司氏」の旧宅であった参考館や益子焼の工場等を訪れました。鉄道遺産と伝統工芸に触れた一日でした。なお、会議日程の来る10月25日(日)に同じコースを辿る予定です。

廃止路線を利用して運転体験のできる観光鉄道

北海道陸別町商工会 事務局長：杉本武勝

明治43年国鉄網走本線開通から95年間走り続けた「ふるさと銀河線」が平成18年4月20日に廃止路線となりましたが、陸別町商工会は陸別町内の鉄道遺産を地域の重要な資源と位置付けし、観光鉄道として平成20年4月20日から鉄道敷地内にある機関車庫、転車台、鉄道車両9両、トロッコ、ほか鉄道作業用具を陸別町から無償で借り受けて、自走式ディーゼル車両を運転体験出来る「ふるさと銀河線りくべつ鉄道」をオープンいたしました。

運転体験コースは駅構内500mを15分間運転出来る「Sコース」、車両の連結など簡易講習含めて80分間運転出来る「Lコース」がありますが、鉄道ファンから要望が多かった構外コース1.6kmを平成24年4月に「銀河コース」として延伸いたしました。このコース



陸別町は日本一寒い村。温度計を持って震える「しばれ君」の雪像横で発車を待つ「ふるさと銀河線りくべつ鉄道」。



「ふるさと銀河線りくべつ鉄道」を走るCR70-8。今年度は延長2.8kmの「新銀河コース」が誕生する。



陸別町のゆるキャラ、しばれ君(左)とつららちゃん(右)。



銀河鉄道999の作者松本零士氏がデザインしたラッピング車両CR75-3(右/通称「白メートル」とCR75-2(左/通称「黄メートル」)。

は日本一長い距離を運転体験出来ることから、全国から注目を集め、また自然を満喫出来るコースとして現在も大変好評であります。

平成27年度はさらに1.2kmを延伸し、2.8kmとしての「新銀河コース」が誕生する予定です。

RPSJ information

■ WATTRAIN 2015 について

WATTRAINとはWorld Association of Tourist Trams and Trainsの略で、世界の保存鉄道が加盟する連合組織です。2012年に英国ヨークの鉄道博物館で第1回の大会が開かれ、日本鉄道保存協会も参加しました。

第2回大会は今年10月、次の日程で日本で開かれることになり、準備を進めています。

- 10月24日(土) 本会議1
 - 10月25日(土) 真岡鐵道、益子見学
 - 10月26日(月) 午前 本会議2
午後 公開シンポジウム
 - 10月27日(火) さいたま、東京地区見学
- 以上のあと、28日(水)から大井川鐵道、リニア鐵道館、明治村、嵯峨野觀光鐵道を訪問して10月31日(土)

事務局

に京都で解散します。希望者はさらに片上鐵道、山口線などを訪問する予定です。

会議は英語で行いますが、日本人参加者のために同時通訳を用意します。また、**本年の日本鉄道保存協会総会は、この行事に合わせて10月26日に開催し、**午後
の公開シンポジウムを通じて、諸外国の保存鉄道の現状を学ぶ機会にしたいと思います。

訪問先となる会員には、ご協力のほどよろしくお願い致します。また、いくつかの会員団体には、総会とシンポジウムで発表をお願いすることになります。

この行事は日本鉄道保存協会の通常の予算では賅いきれない費用が必要なため、会員各位には何分かの寄付をお願いしたいと思いますが、詳細は追ってご連絡申し上げます。

■日本鉄道保存協会 会報 2015年4月号 編集・発行/日本鉄道保存協会

事務局/〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル9階903号 公益財団法人 交通協力会 気付
電話/03-6269-9808 FAX/03-6269-9809 RPSJ.tetsudo.hozon@gmail.com

※常勤者はおりませんので、電話での連絡は下記宛でお願いします。

米山淳一(事務局長): 080-5525-1571

菅 建彦(公益財団法人交通協力会理事長): 090-9101-3267 ホームページ <http://www.rpsj.jp/>